

「小僧道」に思いを馳せ、柳沢地区のパワースポットと寺社参拝を体験

- ① 小僧道に思いを馳せながら、パワースポットと寺社参拝を気楽に体験し、この地区の精神文化に触る。
- ② 戦国時代の村山地方きっての山城の隠れた名城、その広大さ、堅牢さを観る。

a. 石子神社

- ・ 通称「石子さま」と言われ、「子授け、安産の神」が祀られている。
- ・ 「石子さまの由来」は、[民話「石こさま」](#)をご覧ください。



- > 御神体は、石子沢にあった大石
- > 明治初年一村一社の定めにより御嶽神社のところにあった当社が現在地に移り、御嶽神社が入れ替わった。
- > かつては石子沢を水神として祀り「雨乞いの神」として信仰した。

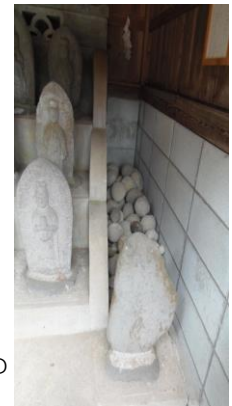


【参道】

※柳沢の画家「西塔太原」の筆による格子天井絵は見事。「西塔太原」は安政9年（西暦1797年）に生まれの9代目西塔長右衛門。当時江戸随一の南画の巨匠と言われた谷文晁に入門。



- > 三十三の観音菩薩石像があり、観音様の名称がそれぞれ刻銘されている。



- > 子授かりの石 ⇒「パワースポット」
現在石子神社内に丸い石が沢山あり、子を授かりたい夫婦は石を一つ持ち帰り、子を授かったら、二つの石を返納する慣わしとなっている。町内はもとより、県内外から参拝者が訪れる。「石段詣」に相應しい。石の神秘に纏わる「パワースポット」。



※ 小僧道

- ・ 土橋からの小僧道は、現在では辿る事が出来ない。
- ・ 石子神社参道前を、柳澤寺東側を通って南に辿る。



b. 柳澤寺(曹洞宗)

- > ご本尊は、釈迦如来。
- > 長崎権七代中山満政の代に、円同寺の末寺として開山。このころ、谷木沢橋跡は廃され円同寺も歴代の霊碑も本円同寺に移されたので末寺として建立。
- > 当山の山門は、明治5年(1873年)天童舞鶴山愛宕地藏権現であった物を、神仏分離令により譲受け建立した。



- > 川西三十三観音霊場の32番札所。
川西とは、須川、最上川の西岸並びに流域の村々をいう。
なお、1番札所は、岡千手観音堂で、33番は岩谷十八夜観音堂が巡拝納めの寺となっている。

c. 阿弥陀堂: 萬願寺跡

- > ご本尊は、阿弥陀如来。「萬願寺跡」と言われるところに祀られている。
- > 「萬願寺」浄土宗（昭和十七年に浄土宗に合同した。本町最古の寺院。
金沢の森谷喜四郎家の古文書によれば、建久5年(1194年)鎌倉時代の初め、森谷家8代目の主が、佐渡の相川より時宗一向は”含聴和尚”を伴って、岩谷に開山したのち柳沢の岩谷入口の水内地内に開基したと伝えられる。



【参道】



【本堂】

- > 参道を登りつめた北側に聖樹「サワラ（ヒノキ科）」巨木有り。高さ約17メートル、幹周4.8メートル、ヒノキ科としては稀にみる巨木である。
推定樹齢800年、木霊の「パワースポット」

- ※ 小僧道
なかなか辿れない。



「小僧道」に思いを馳せ、柳沢地区のパワースポットと寺社参拝を体験

d. 一本杉と円同寺跡

- > 小高い丘に、柳沢を象徴する一本の杉。奥羽山脈を背景に、四季折々の中山町、山形盆地を一望できる。
- > 地元の有志により、一本杉山頂までの遊歩道が整備されている。
- > 山頂から眼下水上地区を望むと、「円同時跡」と云われる所が有り、中山町の遠い歴史に思いを馳せながら周辺を巡ることができる。



e. 御嶽神社

- みたけ おおやまつみの
- > 祭神は山の神。(大山祇の神) 例祭は5月3日。
 - > 六本の絵馬が奉納されている。「俳額」(俳諧が盛んあったことがわかる。)、和算の「算額」(和算は、日本独自数学。レベルは極めて高度であった。)が奉納され、学芸の成就を祈願した。また、若くして亡くなった子供を供養するため婚礼のようすを描いた「ムカサリ絵馬」も奉納されている。
 - > 境内の大杉は推定樹齢250年以上と言われている。同年代のものが他に6本存在する。



【正面参道】



【奥の院】



- > 昭和36年の発掘調査で境内から石器や土器が発見され、縄文時代中期～後期(4500～3000年前)頃の集落跡と判明、古い遺跡であることがわかった。石器等が神社内に掲示されている。



<道標>
大井沢 ← 左、右 → 長崎
往昔の小僧道の道標であった。

※ 小僧道に思いを馳せる。



「湯殿山三十三度参詣供養塔」

f. 谷木沢橋跡 ～遠い歴史に思いを馳せて散策～

- > 町指定史跡の山楯。無名の隠れた名城。(山城としては、天童城には及ばないものの山形市成沢城跡、長谷堂城跡をはるかに凌駕する)
- > 中山町の創始は、中山左衛門継信であるが、その最初の居館址は柳沢の山楯であった。
- > 中山氏は、摂政関白「藤原師実」(もろざね)の末裔とされ名族であった。
- > 寛正5年(西暦1464年)、三代中山宗朝は、長男長崎民部少輔直誠と次男中山玄蕃頭朝勝に谷木沢橋の修築を命じ、直誠は、長崎橋を継がせ、次男朝勝に谷木沢橋を守らせた。
⇒谷木沢橋は、長崎橋(本城)の支城であったが、軍事的に有利な地形に有る山楯を戦争の城に強化した。
- > 最高所の主曲輪(くるわ)は標高248m、最下部の出掛平(でかけたいら)曲輪は標高130m。規模は東西約930m、南北約360m。⇒石子沢川と湯沢川に囲まれた防御性の高い天然の要害の地である。
- > 中山氏最盛期の領地は、長崎、金沢、柳沢、土橋、岡、小塩、平塩、中郷、臥(伏)熊、深沢、用、嶋の十二ヶ村を領土とし、七千石であった。



【谷木沢橋跡の看板】



【主曲輪を見上げる。階段状の曲輪群】

※ 山城の散策は、雪解け後の早春が最高。主曲輪からは、蛇行する最上川と楯岡方面まで山形盆地の町並みが見え、雪をかぶった葉山と月山が美しい。

なお、私有地であることに要留意。